

# 学習者の積極的参加を促す副教材について

国立高雄餐旅大学応用日語系

黄女玲 [kojyorei@gmail.com](mailto:kojyorei@gmail.com)

## 1. 今までの日本語教育目標－「読む、聞く、書く、話す」4技能の成就

### 1.1 どこから教えるの？

50音図（平仮名とカタカナ） 濁音、半濁音、拗音、長音、促音、撥音

⇒「私は田中です。」

⇒「私は朝6時半に起きます。」「7時に朝ご飯を食べます。」

⇒「机の上に本があります。」

⇒「今日は暑いです。」

問題提起：50音は覚えにくい、テレビの日本語番組が理解できない

### 1.2 何を教えるの？

『みんなの日本語』、『日本語GOGOGO』、『学ぶ日本語』など

問題提起：これで学習者の需要が満たされる？

### 1.3 どう教えるの？

単語の練習⇒文法の説明⇒本文の説明⇒練習問題の導入⇒会話練習⇒テスト

問題提起：機械的練習で学習者は本当に理解から応用へと変わる？

## 2. 学習者にとって必要な教材とは

### 2.1 国立餐旅大学の第二外国語課程を例にして（付録参照）

問題点：短期間で「敬語」をマスターしなければならない

## 3. 学習者の参加を促す副教材

★ 教師主導から学習者主導へ

★ 消極的な暗誦や繰り返し練習から積極的な応用へ

## 4. 副教材の応用について－全身を使った楽しい学習活動

学習者が能動的に教室活動に参加できる環境作り

## 5. 副教材に期待できる効果－学習者の思考力を呼び起こす

文節の概念

助詞の使い方

場面によって言葉遣いの調節

間違った箇所への気付き

学習者の成就感と達成感の構築